

北海道に移住して から変わったこと、 想うこと ～北の国から～



函館市医師会
函館新都市病院

たけ ばやし えりこ
竹 林 英理子

このたびは新春随想の執筆のご依頼をいただき、誠にありがとうございます。

私はコロナ混乱期を契機に生まれ育った神奈川県横浜市から北海道函館市に移住しました。神奈川県在住時より、函館市には度々訪れておりました。私の人生、函館市に育てていただいた面もあります。函館市でやりたいことがあり移住したのですが、まるで外国に来たような環境変化でした。移住後の変化と想うことについて一部をお話します。

まず、広い土地における移動手段は車になりました。今まで自動車免許は持っていたものの、交通網が密な首都圏では車が必要なかったのも、運転免許証は身分証明書として使用していました。車運転は再訓練から始まりましたが、隣に乗っている自動車学校の先生は函館の人でも聞き取れないくらいのなまりが強い方で、書面でのレクチャーはなく、いきなり初回から公道を運転しました。実際にあった車中での会話です。

先生：「へじゃかぶを緩めて楽にしゅわっで（膝を緩めて楽に座って）」

「ちゅぎ、しだりに入って（次、左に入って）」。

余裕もないので、ほとんどジェスチャーで理解しましたが、何とかなりました。

「外国人の指導もするさ。おかげでしまなし！（おかげで暇なし）」

私：「へえ、英語が堪能なんですね」

先生：「単純な会話しがないがら。ストップ、レイルチェンジ、ゴーライト、ゴーレフト」

英語の方が分かりやすいかもしれません。2回ほどのご指導のあと、一人デビューを果たし、無謀な運転で知らないオヤジさんに「このヤロー！」と怒鳴られたりしながら、心身ともに強くなっていきました。雪道の運転にはやはり勇気がいらします。雪道での歩行もまるで酔ったアザラシのように転倒したため、ペンギン歩行から習得しました。ですが冬季以外でも交通網の疎に加え、横断歩道と横断歩道間の距離が長いことや風が強く冷たいことが重なり、圧倒的に歩かなくなり、本当にアザラシへと変貌していきました。

ここから話が少し逸れますが、人との交流と身体を動かすことを含めた健康維持を検討した結果、フラダンスという趣味が追加されました。南国の明るい音楽にのり、たまに壊れた操り人形のようなもの、とにかく振り付けを覚え、時には仲間とたわいもない話をする時間は本当に気分転換になります。

趣味の面では他に学生時代からチェロを弾いています。函館で弦楽器のみの楽団に属しており、定期演奏会などに合わせて演奏させていただいております。道南は管楽器演奏がさかんで、中高生全国大会などでは受賞したりしているようです。弦楽器はちゃんと弾ければ、しっとりとした癒やし系の音色です。指導者の不在など弦楽器事情はなかなか厳しいものはありますが、道南における弦楽器演奏者の人口が増え、今後発展していくことを願っています。チェロという楽器を弾くこと自体がとても楽しかったですし、もともとは自分が入院していた時に何よりも音楽の力を実感し、今度は自分が力になりたいと思い、練習を重ねた経緯があります。地域、病院の枠を超えてでも構いませんので、演奏会の機会などがありましたら、お気軽に声をかけてください。

食はとても恵まれていると感じています。空気がきれいで水がとても美味しいですし、スーパーに並んでいる野菜が北海道産のものでひしめき合っています。魚介類も点在する鮮魚店などに行けば豊富でその場でさばいて販売されるというのは北海道ならではの印象です。個人の飲食店も多く、美味しい上に首都圏と比較すると安価な印象です。函館は地域情報誌（あのGLAYのTAKUROさんも時折読んでいると伺っているハコラク、ダテパー、青いぼすとなど）も定期的に発行されるため、仕事がお休みの際にはそれを参考に足を運んでいます。

観光資源という宝がある函館にもう少し規模が大きい大手百貨店のような施設や娯楽施設が追加されれば、若者も定着し、最強な地域になるのではないかと考えますが、そこは人生と同じで無いものなんでしょうか。

最後に、移住してから人は一人では生きていけないこと、心を開き助け合って、日々感謝しながら生きることの大切さを実感しています。まだまだ未熟者が故に、ご迷惑をおかけした方々にはこの紙面で幾分でも陳謝の気持ちをお伝えできれば幸いです。そしてこれからも皆様どうぞよろしくお願いいたします。この度はどうもありがとうございました。

